

未来へつなぐ大牟田の川と有明海の海洋プロジェクト

# 有明海に注ぐ川の環境を守れ!



5年生 白銀川探検の様子

## ユネスコスクール全国大会で公開授業

2017年12月2日、三池炭鉱で知られる福岡県大牟田市で、ESD(持続可能な開発のための教育)を推進するユネスコスクールの全国大会が開催された。同大会で文部科学大臣賞を受賞した大牟田市立吉野小学校では、その前日に公開授業が実施され、全国の教育関係者から高い関心が寄せられた。児童たちにとってはこれまでの学習成果をまとめる場だ。

各学級がテーマに沿った授業を行うなか、5年1組は「守ろう環境!白銀川・隈川探検隊」をテーマに、日本最大の干潟・有明海に注ぐ河川の環境を守るための方法を話し合った。年度初めから進めてきた水質や生物の調査、汚染原因の考察などに続く、「自分たちの思いをどう発信していくか」の議論だ。



## 大牟田市立吉野小学校



### ●実施担当

藤木春美 主幹教諭

### ●活動のモットー

子どもたちが、楽しみながらも主体的に課題を持つように、さらには、自分たちにできることを考えて行動できるように心がけている。



公開授業で発表



校内ビオトープ

## 近代化の牽引役からサステナブル社会の牽引役へ

- これまでの活動について、担当の藤木春美教諭は「子どもたちはシャンプーや洗剤をあまり使わない、油を流さない、といった行動を実践するようになりました」と振り返る。
- この活動は、前年度に行った校内ビオトープの管理から始まった。身近な自然を調べることで、子どもたちは自ら疑問や課題を膨らませていった。橋本一郎校長も「校内ビオトープから校区を流れる川へと範囲を広げました。最終的には有明海までつながる環境学習にしていく考えです」と語る。共同でプログラムを進める近隣の小学校も市内を流れる主な河川の調査を進めており、情報交換のための「川サミット」も計画している。
- 世界遺産「明治日本の産業革命遺産」の構成要素を擁するなど、かつて炭鉱の町として日本の近代化を牽引した大牟田市は、現在、学校教育を通じた環境学習の先進地域として、サステナブル社会の構築を牽引し始めているのだ。(平成29年度プログラム助成)

### 学校概要

ACCU\*から、全国に24校しかない「サステイナブルスクール」に認定された、ESD(持続可能な開発のための教育)の重点校。

設立:1957年

生徒数:409人

所在地:福岡県大牟田市大字白銀967-17

\*公益財団法人ユネスコアジア文化センター

この活動は、中谷医工計測技術振興財団の「科学教育振興助成」により行われています。



公益財団法人

中谷医工計測技術振興財団 〒141-0032 東京都品川区大崎1丁目2番2号 アートヴィレッジ大崎 セントラルタワー8階

シスメックス株式会社創立者の故・中谷太郎氏が私財を投じて設立。医工計測技術分野の発展を願い、「中谷賞」をはじめ各種研究助成、若手研究者支援や国際交流事業を展開。さらに、すそ野拡大のため、科学教育振興活動などに対し、幅広い助成事業を行っています。

中谷財団

検索